

2009年3月期 第2四半期 決算短信添付資料（決算説明会資料）



当資料取扱上の注意点

将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価等といった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、あらたな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因は多数あります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なおかかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、銘柄嗜好の変化
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動

2009年3月期 第2四半期実績



2009年3月期 第2四半期実績

■ 業績ハイライト

海外たばこ事業におけるトップライン成長の継続に加えGallaherの連結等により、売上高、EBITDAは増収・増益となったものの、海外たばこ事業および食品事業におけるのれん償却開始により、営業利益は減益

(単位: 億円)

	2008年3月期 第2四半期	2009年3月期 第2四半期	増減
税込売上高	29,140	34,970	5,830 (20.0%増)
税抜売上高	11,985	14,430	2,445 (20.4%増)
EBITDA	2,948	3,453	505 (17.1%増)
営業利益	2,191	2,045	△ 145 (6.7%減)
経常利益	2,010	1,513	△ 496 (24.7%減)
四半期純利益	1,323	694	△ 628 (47.5%減)

【参考: のれんの償却影響を除く主要利益】

営業利益	2,199	2,578	378 (17.2%増)
経常利益	2,018	2,046	28 (1.4%増)
四半期純利益	1,331	1,227	△ 103 (7.8%減)

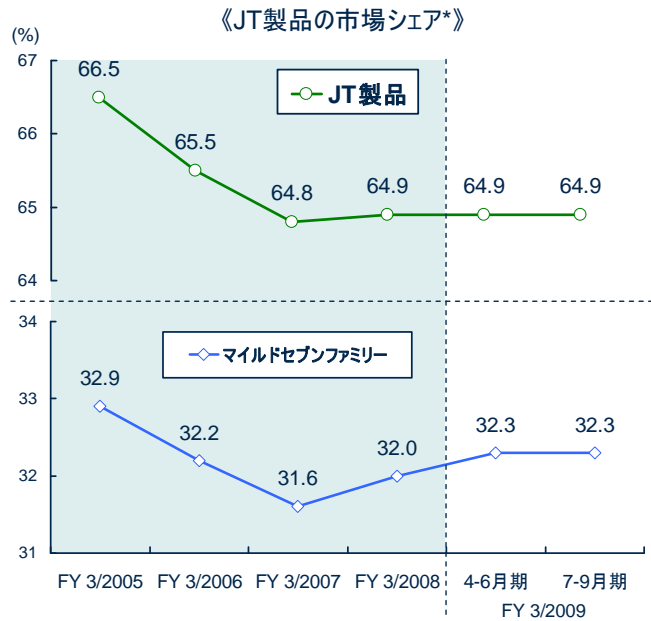
2009年3月期 第2四半期実績

国内たばこ事業

販売数量の減少に加え、販売促進費の増加等により、減収・減益

	2008年3月期 第2四半期	2009年3月期 第2四半期	増減
税込売上高	17,233	16,623	△ 609 (3.5%減)
税抜売上高 (除く輸入たばこ)	3,651	3,516	△ 135 (3.7%減)
EBITDA	1,654	1,455	△ 199 (12.0%減)
営業利益	1,245	1,056	△ 189 (15.2%減)

	2008年3月期 第2四半期	2009年3月期 第2四半期	増減
JT販売数量	858	829	△ 28 (3.3%減)
国内総需要	1,326	1,277	△ 48 (3.7%減)
JT販売数量シェア(%)	64.7%	64.9%	0.2



* 新ベース=JTオリジナルブランド + JTの国内向け製品(キャメル・ウインストン・セラム等)

5



2009年3月期 第2四半期実績

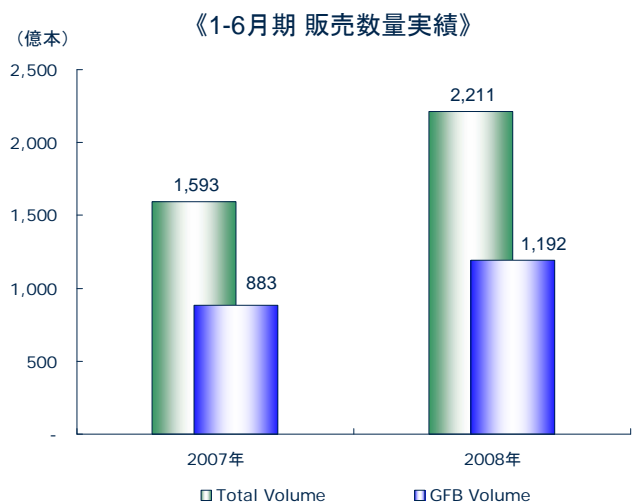
海外たばこ事業

GFBを中心としたトップライン成長の継続およびGallaherの連結等により、前年を大幅に上回る実績

	2008年3月期 第2四半期	2009年3月期 第2四半期	増減
税込売上高	10,054	15,641	5,586 (55.6%増)
税抜売上高 (除く物流事業)	4,029	5,452	1,423 (35.3%増)
EBITDA (円ベース)	1,183	1,849	666 (56.3%増)
営業利益	927	1,001	74 (8.0%増)

	2008年3月期 第2四半期	2009年3月期 第2四半期	増減
総販売数量(億本)	1,593	2,211	618 (38.8%増)
GFB販売数量(億本)	883	1,192	308 (34.9%増)
円ドルレート(円)	120.15	104.89	△ 15.26

	2008年3月期 第2四半期	2009年3月期 第2四半期	増減
EBITDA (ドルベース)	1,058	1,860	802 (75.8%増)



Note: 海外たばこ事業実績は1-6月期を連結

6



海外たばこ事業の販売実績(速報) 2008年1-9月期

海外たばこ事業

GFBを中心とした好調な成長モメンタムを持続

2008年1-9月期の販売実績および売上高(速報値) (比較可能ベース)

(単位: 億本)

	2008年3月期*				2009年3月期			
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	Total	1-3月期	4-6月期	7-9月期	Total
総販売数量	950	1,090	1,146	3,186	1,039 (9.4%増)	1,172 (7.5%増)	1,218 (6.3%増)	3,429 (7.6%増)
GFB販売数量	467	551	576	1,593	556 (19.1%増)	635 (15.4%増)	663 (15.2%増)	1,855 (16.4%増)
税抜売上高** (百万USドル)	2,064	2,340	2,333	6,737	2,471 (19.7%増)	2,728 (16.6%増)	2,999 (28.5%増)	8,198 (21.7%増)
千本当税抜売上高** (USドル)	21.7	21.5	20.4	21.1	23.8 (9.4%増)	23.3 (8.4%増)	24.6 (21.0%増)	23.9 (13.1%増)

* 2008年3月期(比較可能ベース): Gallaherの通年実績の理論値を含む
** 物流事業を除いた売上高

7



海外たばこ事業の販売実績(速報) 2008年1-9月期

海外たばこ事業

好調なGFB成長に加え、地域毎にバランスの取れた成長を持続

【2008年1-9月期 GFB販売実績*(速報値)】



+17.9% ロシア、ウクライナ、トルコ、スペイン等での力強い成長モメンタムを維持



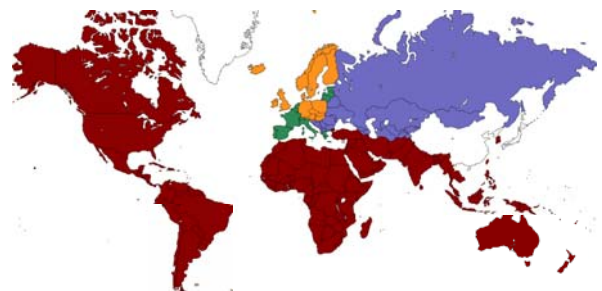
+10.2% イタリア、ロシア、スペイン等での成長



+12.4% 韓国での成長モメンタムを維持、台湾における2006年の値上げからの回復等

【2008年1-9月期 地域別販売実績*(速報値)】

- South & West Europe **+9.2%**
- North & Central Europe **-1.8%**
- CIS+ **+5.7%**
- Rest of the World **+15.4%**



* 2007年1-9月期(比較可能ベース): Gallaherの通年実績の理論値を含む

8



2009年3月期 第2四半期実績

■ 医薬事業

ロシュ社に導出した「JTT-705」およびギリアド・サイエンズ社に導出した「JTK-303」の開発の進展に伴うマイルストーン収入等から、増収となり、利益面についても改善

臨床開発品目(2008年10月30日現在)

(単位:億円)

	2008年3月期 第2四半期	2009年3月期 第2四半期	増減
売上高	221	268	46 (21.0%増)
EBITDA	△ 58	2	60 -
営業利益	△ 74	△ 15	58 -

開発名	主な適応症	開発段階
JTT-705(経口)	脂質異常症	国内: Phase2
JTT-130(経口)	脂質異常症	国内: Phase2 海外: Phase2
JTK-303(経口)	HIV感染症	国内: Phase1
JTT-302(経口)	脂質異常症	海外: Phase2
JTT-305(経口)	骨粗鬆症	国内: Phase2
JTT-552(経口)	高尿酸血症	国内: Phase2
JTT-651(経口)	2型糖尿病	国内: Phase1
JTS-653(経口)	鎮痛、過活動膀胱	国内: Phase1
JTT-654(経口)	2型糖尿病	海外: Phase1
JTK-656(経口)	HIV感染症	海外: Phase1

JTT-705: 導出先のロシュ社においてPhase3に移行
(2008年4月同社公表)

新規臨床試験開始

JTK-303: 導出先のギリアド・サイエンズ社においてPhase3に移行
(2008年7月同社公表)

JTT-305: メルク社へ導出することに関するライセンス契約を締結
(2008年9月公表)

9



2009年3月期 第2四半期実績

■ 食品事業

加ト吉グループの連結等により増収するも、営業損益は経費の増加、原材料価格の高騰、のれん償却の影響等により営業損失を計上

(単位:億円)

	2008年3月期 第2四半期	2009年3月期 第2四半期	増減
売上高	1,520	2,334	814 (53.5%増)
EBITDA	59	34	△ 24 (41.2%減)
営業利益	37	△ 56	△ 93 -



10



5

■ 食品事業

今後の方向性

- 加工食品事業における今後の取り組み
 - ◆ 社名・ブランドの統一
 - ◆ 商品開発、営業、調達、システムの統合
 - ◆ 最適な製造体制の追求、営業拠点の統合
- 調味料事業は、国内販売・商品開発機能を2009年4月に富士食品工業(株)に集約

安全管理体制強化の取り組みとその進捗状況

- リスク低減に向けた取り組み
 - ◆ 中国品質管理センターが2008年9月より稼動
 - ◆ フードディフェンスに関して外部機関とのコンサルタント契約を締結
- お客様への対応の強化
 - ◆ お客様相談室機能を、2009年1月に加ト吉に統合(窓口の一元化・365日体制の確立)
- 組織・体制の強化
 - ◆ 3人目の外部顧問(食の安全に関するアドバイザー)を招聘

(このスライドは空白です)

2009年3月期 業績予想



2009年3月期 業績予想

■ 国内たばこ事業

販売数量の見込みに変更はないものの、JTIからのロイヤリティ収入の増加およびtaspoランニング費用の軽減により利益を上方修正

(単位: 億円)

	2008年3月期 実績(A)	2009年3月期 当初見込(B)	2009年3月期 修正見込(C)	当初見込比 差異(C-B)	前年比増減 (C-A)
税込売上高	33,623	31,650	31,690	40 (0.1%増)	△ 1,933 (5.8%減)
税込売上高 (除く輸入たばこ)	21,692	20,490	20,520	30 (0.1%増)	△ 1,172 (5.4%減)
EBITDA	3,067	2,610	2,640	30 (1.1%増)	△ 427 (13.9%減)
営業利益	2,223	1,730	1,800	70 (4.0%増)	△ 423 (19.0%減)

【主な前提条件】

(単位: 億本)

JT製品販売数量	1,677	1,590	1,590	0 (増減なし)	△ 87 (5.2%減)
----------	-------	-------	-------	-------------	-----------------

2009年3月期 業績予想

海外たばこ事業

継続的なトップライン成長を踏まえ、販売数量、売上および各利益指標を上方修正

(単位: 億円)

	2008年3月期 実績(A)	2009年3月期 当初見込(B)	2009年3月期 修正見込(C)	当初見込比 差異(C-B)	前年比増減 (C-A)
税込売上高	26,399	28,960	31,550	2,590 (8.9%増)	5,150 (19.5%増)
税込売上高 (除く物流事業)	23,810	26,180	28,220	2,040 (7.8%増)	4,409 (18.5%増)
EBITDA (円ベース)	2,707	3,010	3,340	330 (11.0%増)	632 (23.4%増)
営業利益	2,053	1,440	1,690	250 (17.4%増)	△ 363 (17.7%減)

(参考) JTへのロイヤリティー支払い前

(単位: 百万USドル)

EBITDA (ドルベース)	2,452	3,180	3,430	250 (7.9%増)	978 (39.9%増)
-------------------	-------	-------	-------	----------------	-----------------

【主な前提条件】

総販売数量(億本)	3,856	4,500	4,520	20 (0.4%増)	664 (17.2%増)
GFB販売数量(億本)	2,032	2,430	2,440	10 (0.4%増)	408 (20.1%増)
円ドルレート(円/USドル)	117.85	100.00	103.00	3.00	△ 14.85

(参考) 比較可能ベース

総販売数量(億本)	4,302	4,500	4,520	20 (0.4%増)	218 (5.1%増)
GFB販売数量(億本)	2,166	2,430	2,440	10 (0.4%増)	274 (12.6%増)

Note1: 海外たばこ事業は1-12月期の業績を連結

Note2: 2008年3月期については、2007年4月18日以降12月31日までのGallaherの業績を連結

15

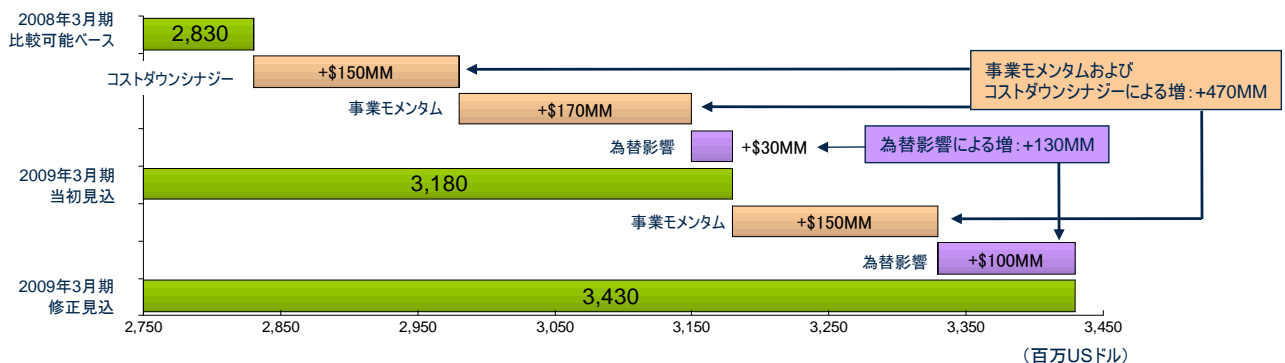


2009年3月期 業績予想

海外たばこ事業

為替影響

ドル対現地通貨



【為替レート】

	2008年 1-9月期実績	1-9月期 対前年比較	2008年 前提為替レート
EUR	0.66	11.7% ユーロ高	0.67
GBP	0.51	2.1% ポンド安	0.53
RUB	24.05	7.1% ルーブル高	24.70

16



2009年3月期 業績予想

■ 医薬事業

「JTT-305」の導出に伴う契約一時金収入等により、上方修正

(単位: 億円)

	2008年3月期 実績(A)	2009年3月期 当初見込(B)	2009年3月期 修正見込(C)	当初見込比 差異(C-B)	前年比増減 (C-A)
売上高	490	445	545	100 (22.5%増)	54 (11.1%増)
EBITDA	△ 62	△ 80	10	90 -	72 -
営業利益	△ 96	△ 120	△ 30	90 -	66 -

■ 食品事業

水産加工品の販売が見込を下回ることや、飲料事業において天候不順の影響や競争激化に伴う上期の減収影響が響くこと等から、下方修正

(単位: 億円)

	2008年3月期 実績*(A)	2009年3月期 当初見込(B)	2009年3月期 修正見込(C)	当初見込比 差異(C-B)	前年比増減 (C-A)
売上高	3,364	4,860	4,780	△ 80 (1.6%減)	1,415 (42.1%増)
EBITDA	83	260	225	△ 35 (13.5%減)	141 (169.4%増)
営業利益	6	△ 40	△ 70	△ 30 -	△ 76 -

* 2008年3月期については、1月1日以降3月31日までの加ト吉の実績を連結

17



2009年3月期 業績予想

■ 連結業績予想

海外たばこ事業における継続的なトップライン成長、医薬事業における契約一時金収入等を踏まえ売上高、および各利益を当初見込から上方修正、売上高、EBITDAは過去最高となる見込み

(単位: 億円)

	2008年3月期 実績(A)	2009年3月期 当初見込(B)	2009年3月期 修正見込(C)	当初見込比 差異(C-B)	前年比増減 (C-A)
税込売上高	64,097	66,100	68,700	2,600 (3.9%増)	4,602 (7.2%増)
EBITDA	6,020	5,930	6,340	410 (6.9%増)	319 (5.3%増)
営業利益	4,305	3,110	3,480	370 (11.9%増)	△ 825 (19.2%減)
経常利益	3,626	2,780	2,900	120 (4.3%増)	△ 726 (20.0%減)
当期純利益	2,387	1,480	1,600	120 (8.1%増)	△ 787 (33.0%減)
ROE(%)	11.8	7.7	9.3	1.6	△ 2.5
FCF	△ 14,937	2,650	2,290	△ 360	17,220

【参考: のれんの償却影響を除く当期純利益、EPS】

当期純利益	2,425	2,500	2,640	140 (5.6%増)	214 (8.8%増)
EPS	25,321円86銭	26,095円82銭	27,557円18銭	1,461円36銭	2,235円32銭

Note: 2008年3月期については、4月18日以降12月31日までのGallaher, 1月1日以降3月31日までの加ト吉の業績を連結

18



【参考資料】

2009年3月期 第2四半期実績 および 2009年3月期 業績予想 における増減要因の分析



当資料取扱上の注意点

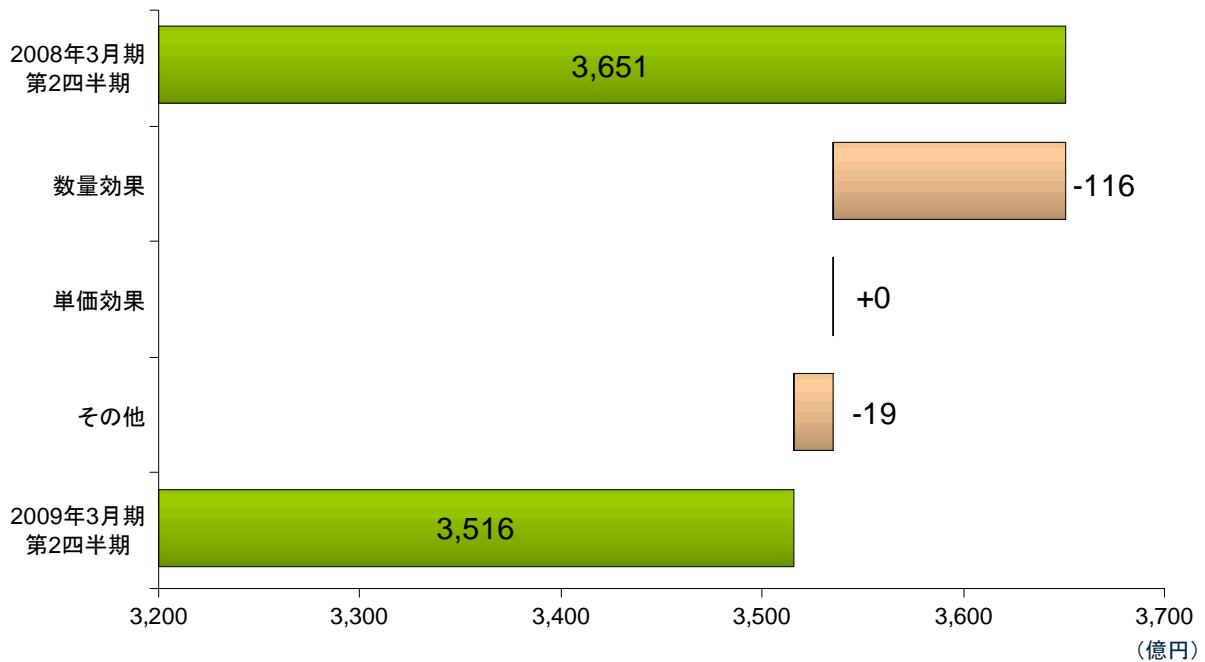
将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価等といった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、あらたな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因は多数あります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なおかかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、銘柄嗜好の変化
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動

2009年3月期 第2四半期 実績

国内たばこ事業 税抜売上高（輸入たばこを除く）

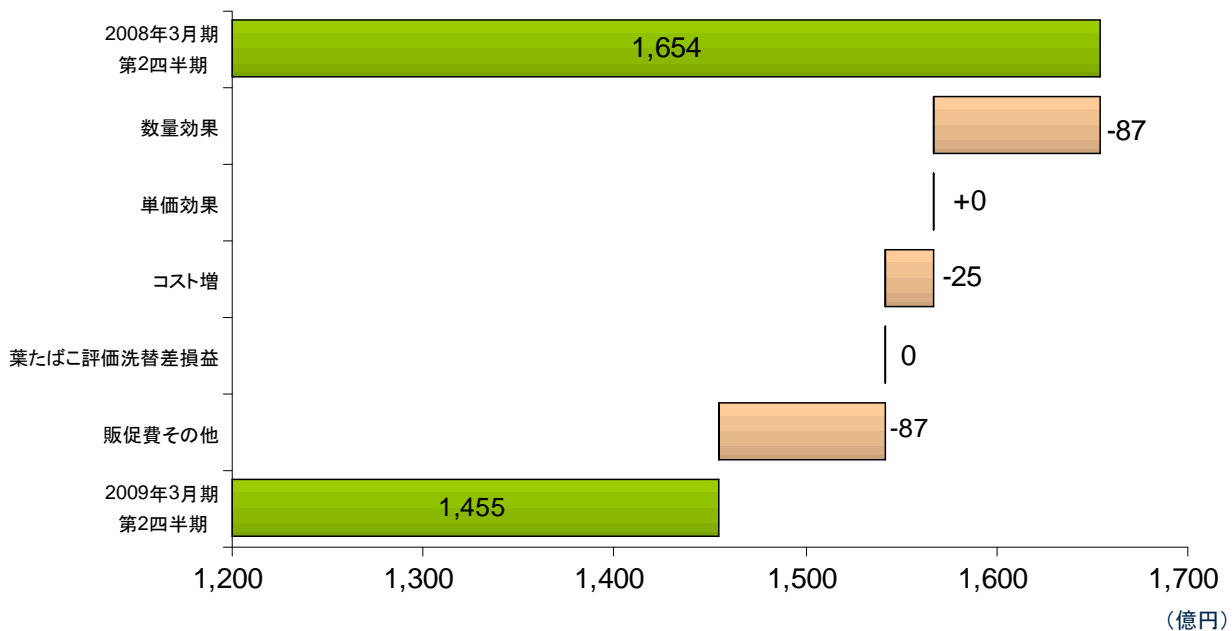


21



2009年3月期 第2四半期 実績

国内たばこ事業 EBITDA

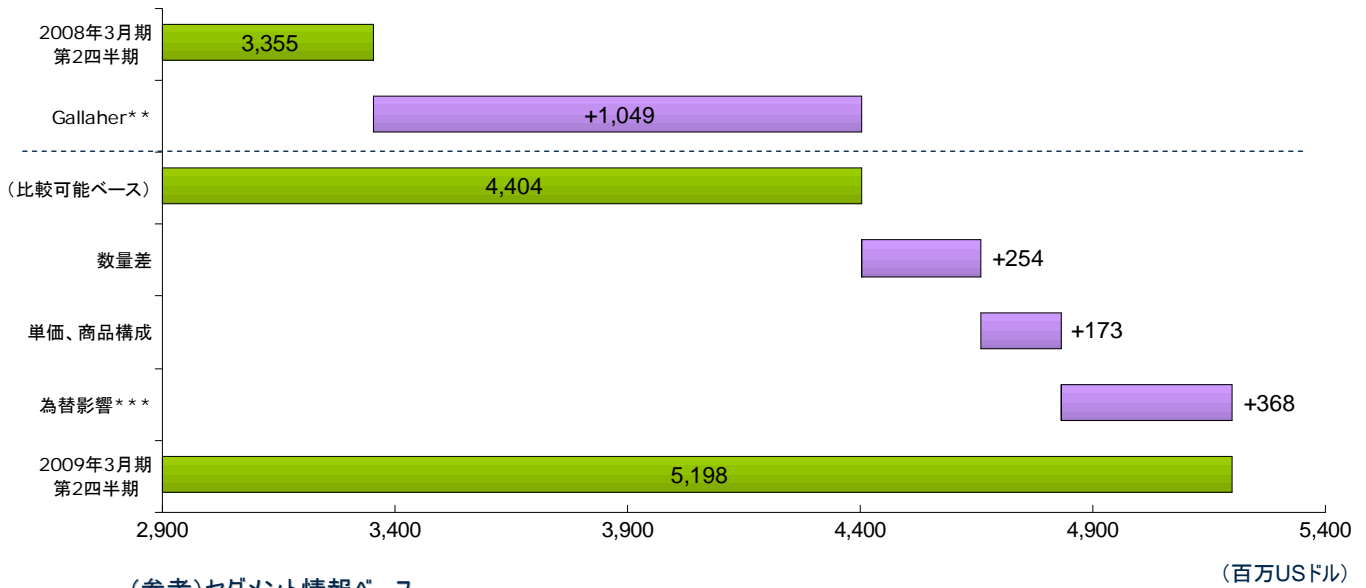


22



2009年3月期 第2四半期 実績

海外たばこ事業 税抜売上高*



(参考)セグメント情報ベース

海外たばこ事業税抜売上高* 4,029億円 → 5,452億円 (1,423億円増)

* Gallaherより承継した物流事業の売上高は除く

** 統合前のGallaherの理論値

*** USドルと各現地通貨との間の為替影響

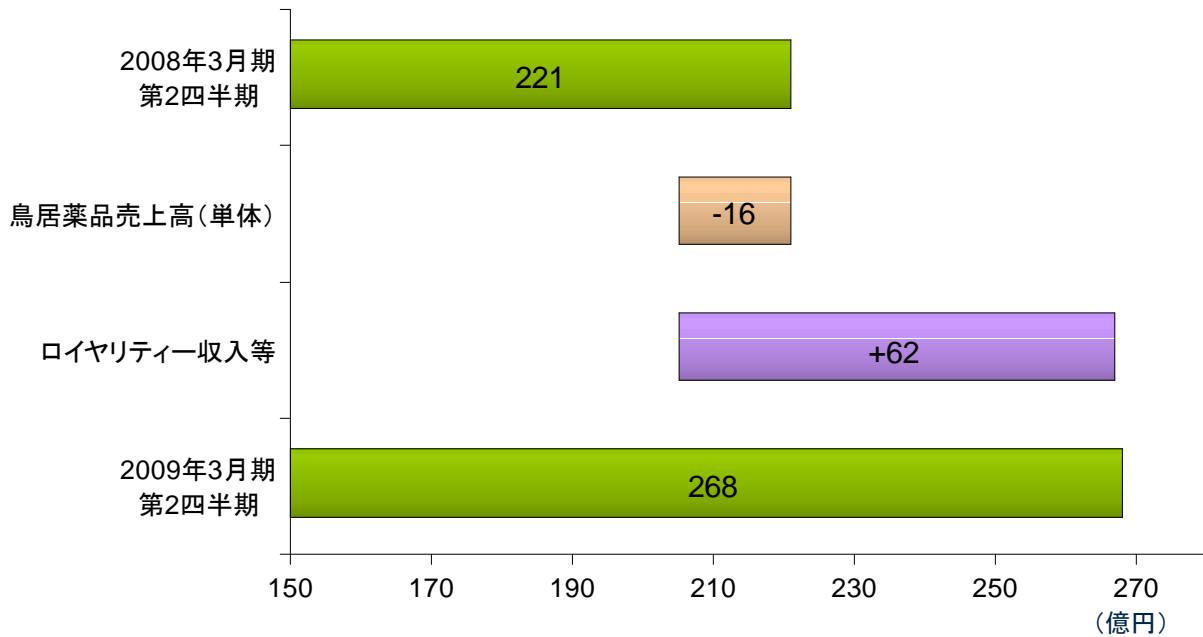


(このスライドは空白です)



2009年3月期 第2四半期 実績

■ 医薬事業 売上高

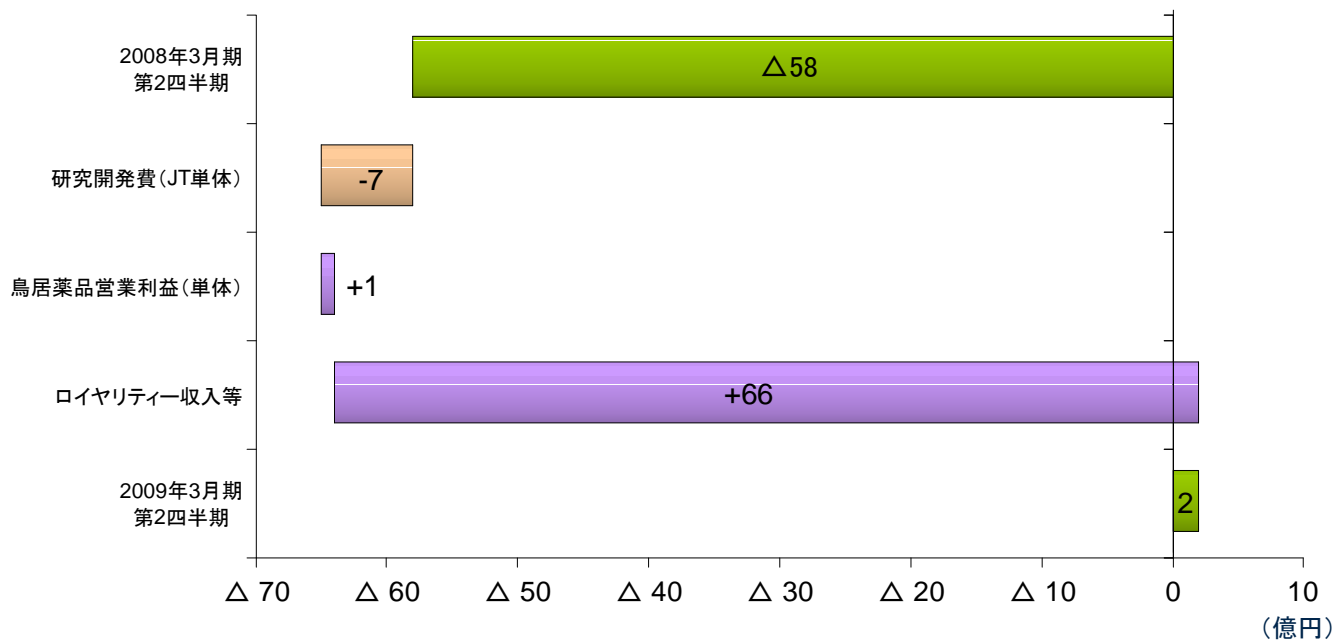


25



2009年3月期 第2四半期 実績

■ 医薬事業 EBITDA

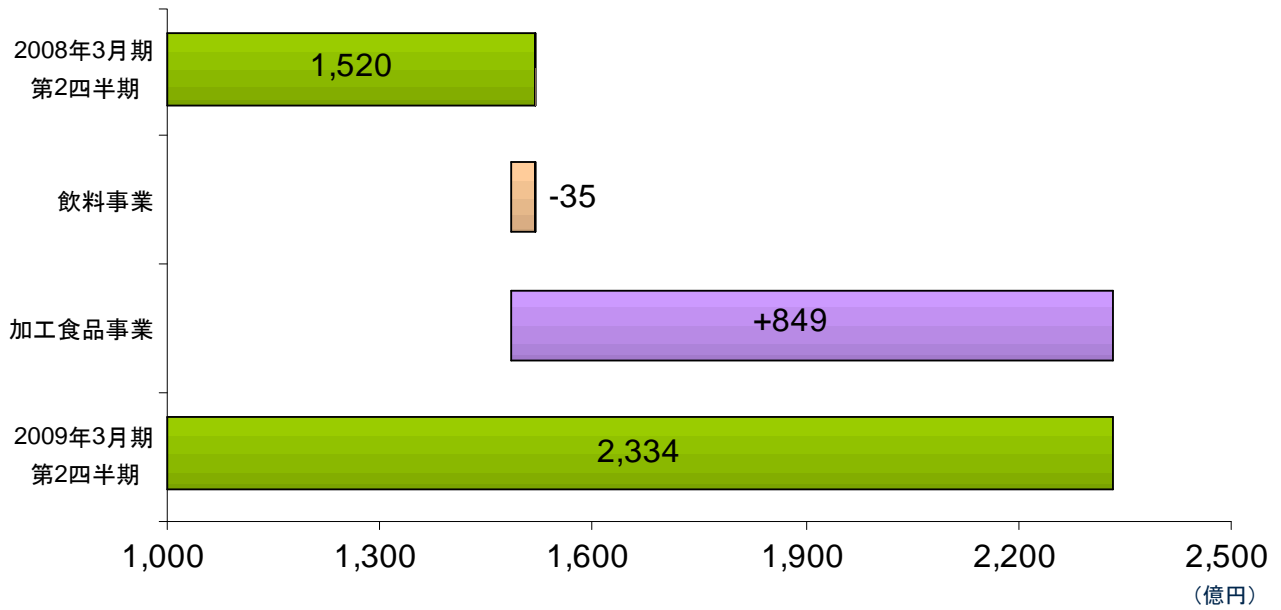


26



2009年3月期 第2四半期 実績

■ 食品事業 売上高

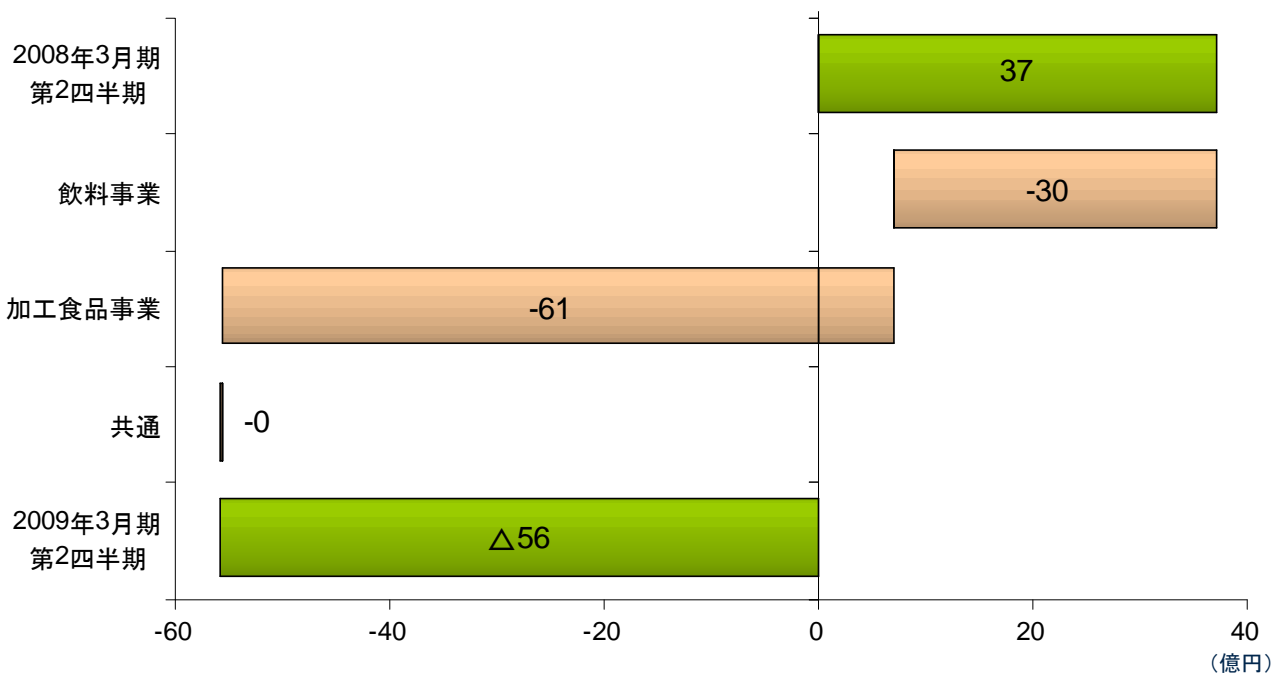


27



2009年3月期 第2四半期 実績

■ 食品事業 営業利益

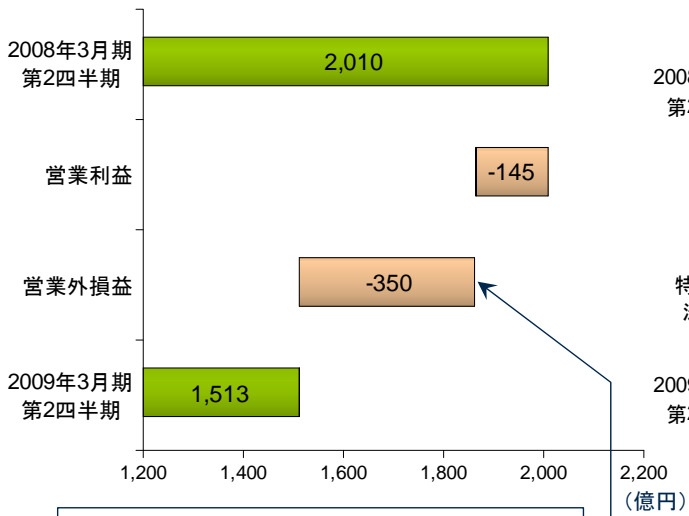


28



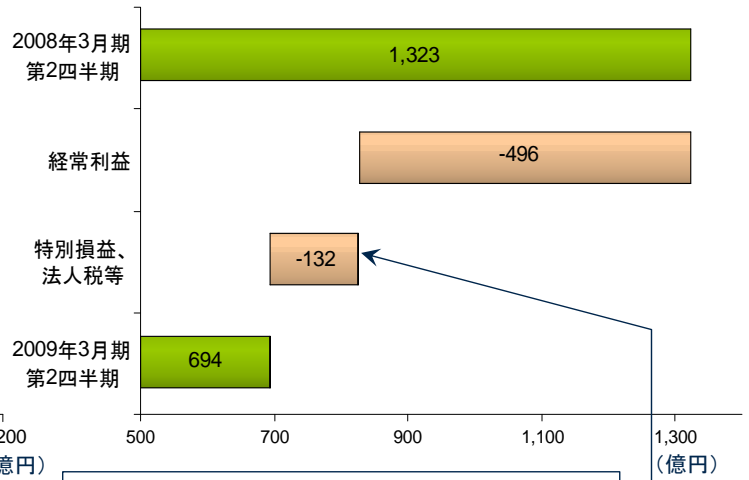
2009年3月期 第2四半期 実績

■ 経常利益



改善要因: たばこ災害援助金の減: 15億円 等
悪化要因: 為替差損の増: 305億円
 支払利息の増: 55億円
 受取利息の減: 24億円 等

■ 四半期純利益



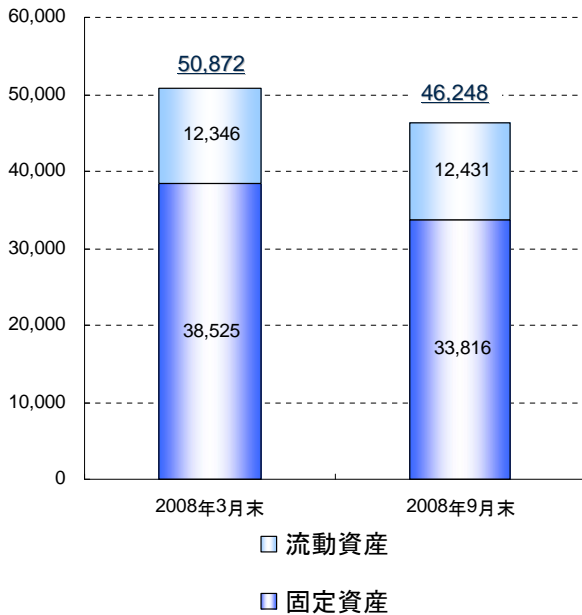
改善要因: 固定資産売却益の増: 99億円 等
悪化要因: 減損損失の増: 93億円
 成人識別自販機導入費用の増: 84億円
 固定資産除却損の増: 37億円 等

(このスライドは空白です)

2009年3月期 第2四半期 連結貸借対照表のポイント

■ 資産の部

(億円)



2008年3月末との比較

■ 流動資産は84億円増加

■ 固定資産は4,708億円減少

- ◆ のれんの減少 △3,660億円
- ◆ 商標権の減少 △641億円

2009年3月期 第2四半期 連結貸借対照表のポイント

■ 負債・純資産の部

(億円)



2008年3月末との比較

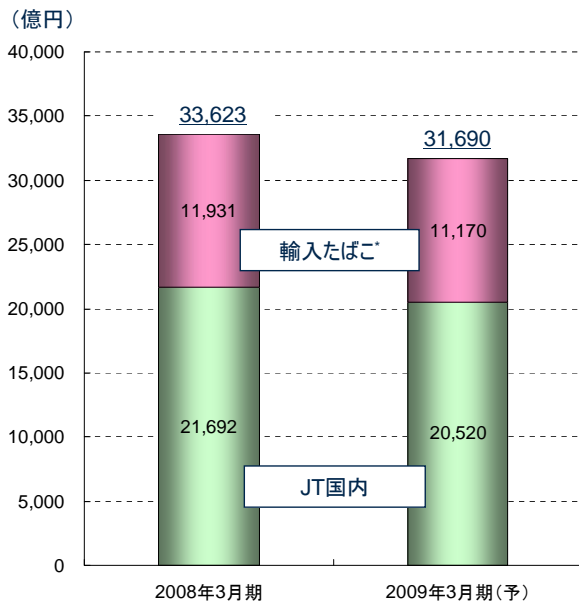
■ 負債合計は1,614億円減少

■ 純資産合計は3,009億円減少

- ◆ 利益剰余金の減少 △1,485億円
- ◆ 為替換算調整勘定のマイナス幅の拡大 △1,469億円
- 自己資本比率 40.8% → 38.5%

2009年3月期 業績予想_対前年度実績

国内たばこ事業 税込売上高



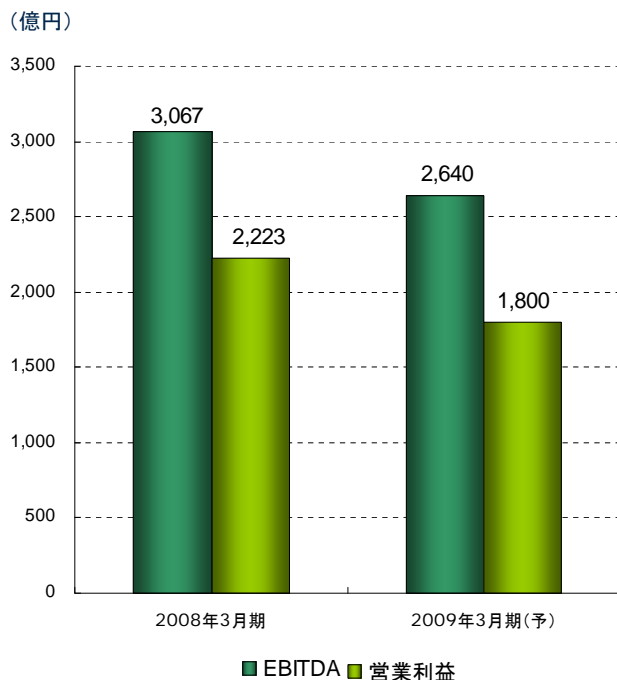
【主な減少要因】

- ・JT販売数量の減
1,677億本 → 1,590億本: $\Delta 87$ 億本
- ・輸入たばこの減

* 連結決算上、国内たばこ事業売上高には、子会社であるTTSネットワーク(株)が取り扱う輸入たばこ製品の売上高を含んでいます。

2009年3月期 業績予想_対前年度実績

国内たばこ事業 EBITDA / 営業利益

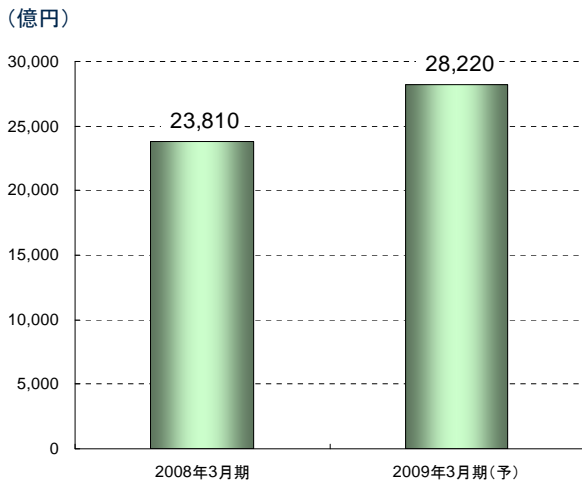


【主な減少要因】

- ・JT販売数量の減($\Delta 87$ 億本): 約270億円
- ・コスト増、その他: 約117億円
- ・taspoランニング費用: 約40億円

2009年3月期 業績予想_対前年度実績

■ 海外たばこ事業 税込売上高



【主な増加要因】

- ・GFBを中心としたトップライン成長
- ・Gallaherの連結が通期化

(参考) 連結円ドルレート 117.85円 → 103.00円 (14.85円高)

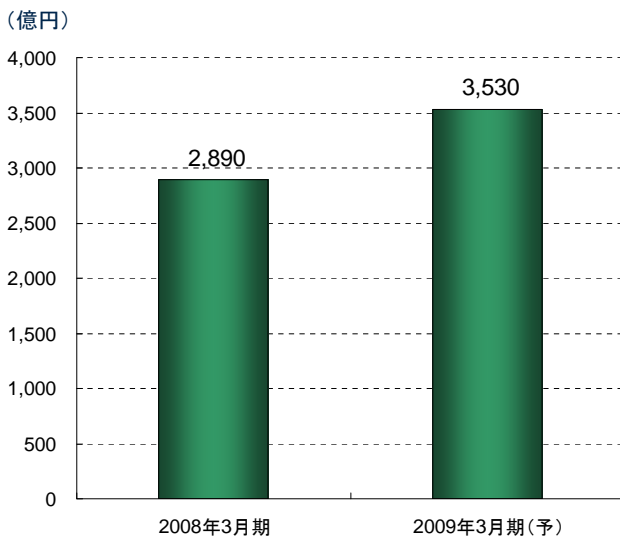
Note1: 海外たばこ事業は1-12月期の業績を連結

Note2: 2008年3月期については、2007年4月18日以降12月31日までのGallaherの業績を連結

Note3: Gallaherより承継した物流事業の売上高は除く

2009年3月期 業績予想_対前年度実績

■ 海外たばこ事業 EBITDA (JTへのロイヤリティー支払前)



【主な増加要因】

- ・GFBを中心としたトップライン成長
- ・Gallaherの連結が通期化

(参考)セグメント情報ベース

海外たばこ事業EBITDA	2,707億円 → 3,340億円 (632億円増)
海外たばこ事業営業利益	2,053億円 → 1,690億円 (363億円減)
連結円ドルレート	117.85円 → 103.00円 (14.85円高)

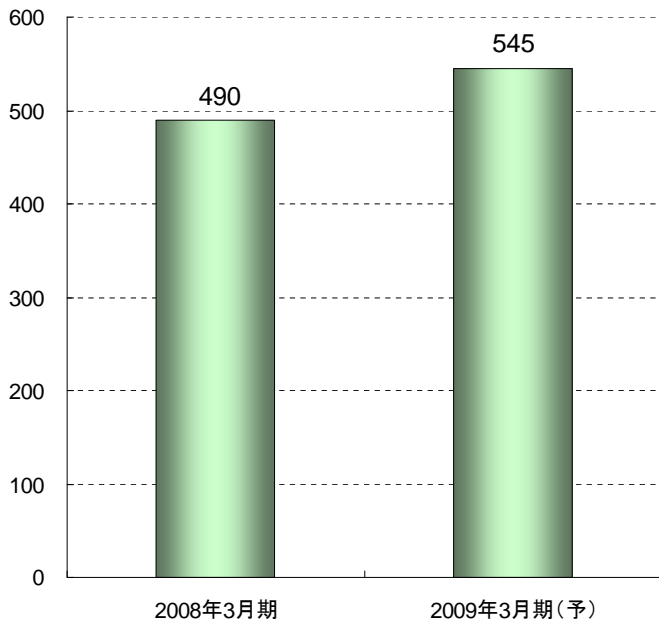
Note1: 海外たばこ事業は1-12月期の業績を連結

Note2: 2008年3月期については、2007年4月18日以降12月31日までのGallaherの業績を連結

2009年3月期 業績予想_対前年度実績

■ 医薬事業 売上高

(億円)



【主な増加要因】

- ・「JTT-305」の導出に伴う契約一時金収入
- ・「JTK-303」の開発の進展に伴うマイルストーン収入

【主な減少要因】

- ・鳥居薬品の売上高: 408億円→367億円 (△41億円)

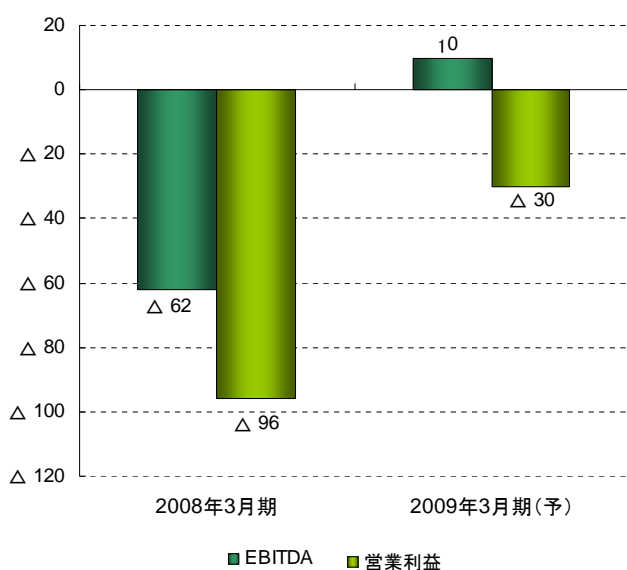
37



2009年3月期 業績予想_対前年度実績

■ 医薬事業 EBITDA / 営業利益

(億円)



【主な増加要因】

- ・「JTT-305」の導出に伴う契約一時金収入
- ・「JTK-303」の開発の進展に伴うマイルストーン収入

【主な減少要因】

- ・研究開発費(単体)の増
- ・鳥居薬品の営業利益: 51億円→42億円 (△9億円)

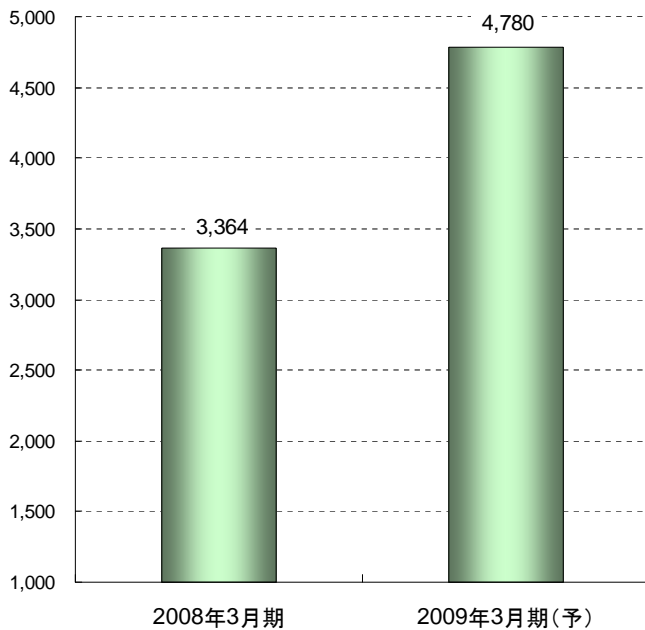
38



2009年3月期 業績予想_対前年度実績

■ 食品事業 売上高

(億円)



【主な増加要因】

・加ト吉の通期化及び富士食品の新規連結

【主な減少要因】

・旧JT冷凍加工食品事業の売上減

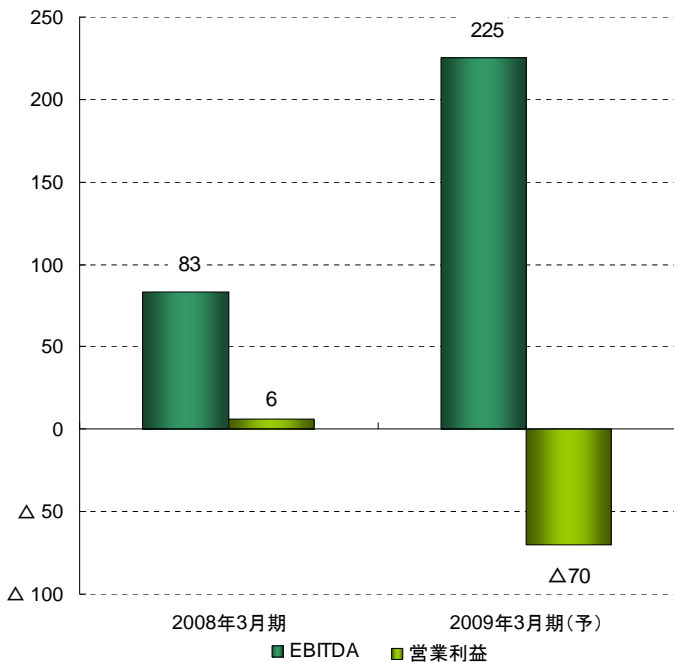
39



2009年3月期 業績予想_対前年度実績

■ 食品事業 EBITDA / 営業利益

(億円)



【主な増加要因】

・加ト吉の連結が通期化

※EBITDA:リース会計処理の変更による償却費増

【営業利益の主な減少要因】

・のれん償却費の増加(加ト吉、富士食品)

・旧JT冷凍加工食品事業の減等

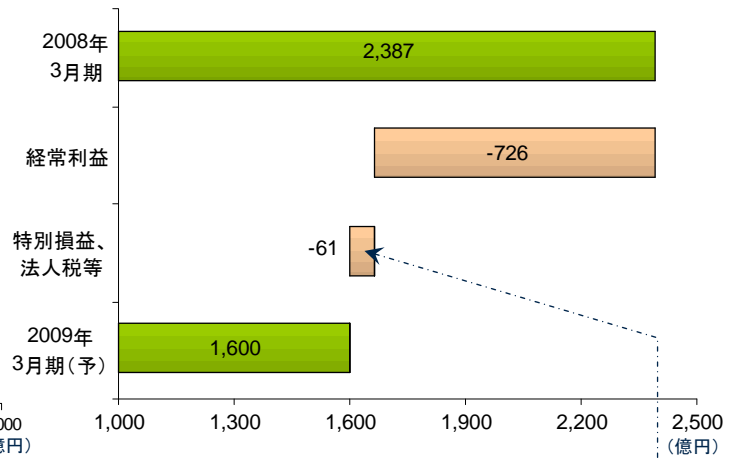
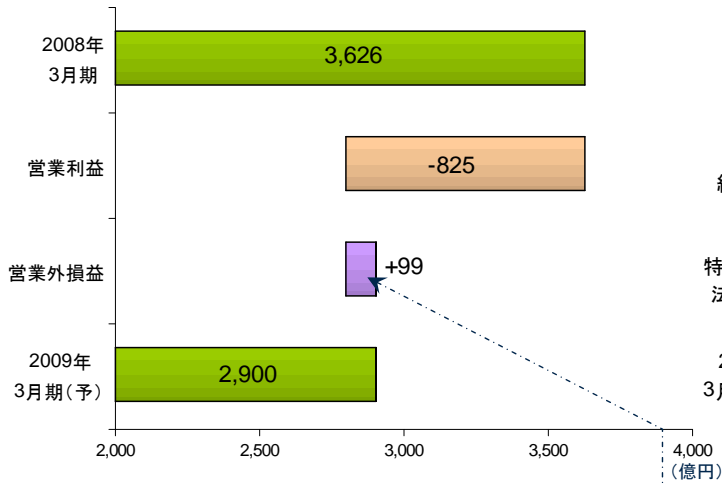
40



2009年3月期 業績予想_対前年度実績

■ 経常利益

■ 当期純利益



改善要因: 為替差損の改善
(通貨オプション費用、ユーロ建て社債) 等

悪化要因: 支払利息の増加
(GLH買収に伴う、海外借入金利息の通期化影響) 等

改善要因: 冷凍食品等回収関連費用の減少
投資有価証券評価損の減少(カナダABCP) 等

悪化要因: 固定資産売却益の減少(大規模物件の売却件数減少)
減損損失の増加(旧社宅の取壊し) 等

2009年3月期 第2四半期 決算データ集(1)

1. 売上高の内訳

(単位:億円)

	07年9月期	08年9月期	増減
全社税込売上高 ^(注1)	29,140	34,970	5,830
国内たばこ事業	17,233	16,623	△ 609
除く輸入たばこ	11,088	10,704	△ 384
海外たばこ事業 ^(注1)	10,054	15,641	5,586
除く物流事業	9,257	13,981	4,724
全社税抜売上高 ^{(注1)(注2)}	9,532	11,674	2,141
国内たばこ事業 ^(注2)	3,651	3,516	△ 135
海外たばこ事業 ^{(注1)(注2)}	4,029	5,452	1,423
医薬事業	221	268	46
食品事業	1,520	2,334	814
飲料事業	1,018	983	△ 35
加工食品事業	502	1,351	849
その他事業	109	102	△ 6

(注1): 海外たばこ事業は、1-6月期の実績

(注2): 国内たばこ事業の輸入たばこ、海外たばこ事業の物流事業を除く

2. 葉たばこ評価洗替差損益^(注)

(単位:億円)

	07年9月期	08年9月期	増減
葉たばこ評価洗替差損益	△ 20	△ 20	-

(注): マイナス表示の場合は評価益

3. 販売費及び一般管理費の内訳

(単位:億円)

	07年9月期	08年9月期	増減
販売費及び一般管理費	3,267	4,464	1,197
人件費 ^(注)	903	1,172	269
広告宣伝費	100	124	24
販売促進費	698	807	108
研究開発費	218	252	33
減価償却費	354	439	85
その他	991	1,668	676

(注): 人件費=報酬+給料手当+退職給付費用+法定福利費+従業員賞与+賞与引当金繰入額

4. 事業セグメント別EBITDA^(注1)

(単位:億円)

	07年9月期	08年9月期	増減
全社EBITDA	2,948	3,453	505
営業利益	2,191	2,045	△ 145
減価償却費 ^(注2)	756	1,407	650
国内たばこ事業EBITDA	1,654	1,455	△ 199
営業利益	1,245	1,056	△ 189
減価償却費 ^(注2)	409	399	△ 9
海外たばこ事業EBITDA ^(注3)	1,183	1,849	666
営業利益	927	1,001	74
減価償却費 ^(注2)	255	848	592
医薬事業EBITDA	△ 58	2	60
営業利益	△ 74	△ 15	58
減価償却費 ^(注2)	15	18	2
食品事業EBITDA	59	34	△ 24
営業利益	37	△ 56	△ 93
減価償却費 ^(注2)	22	91	68
その他事業EBITDA	117	104	△ 13
営業利益	59	50	△ 8
減価償却費 ^(注2)	58	53	△ 5

(参考)

(単位:百万ドル)

	07年9月期	08年9月期	増減
海外たばこ事業EBITDA (ロイヤリティ支払前)	1,058	1,860	802

(注1): EBITDA=営業利益+減価償却費^(注2)

(注2): 減価償却費=有形固定資産、無形固定資産、長期前払費用及びのれんの償却費

(注3): 海外たばこ事業は、1-6月期の実績

5. 主要投資案件の諸償却費

(単位:億円)

	07年9月期	08年9月期	償却年数	終了
JT				
旧RJRI関連				
商標権	146	146	10年	'09年4月
特許権	4	-	8年	'07年4月
加ト吉				
のれん	-	46	5年	'12年12月

(単位:百万ドル)

	07年6月期	08年6月期	償却年数
JTインターナショナル			
旧RJRI及び旧Gallaher関連			
商標権 ^(注)	75	143	主に20年
のれん	-	453	20年

(注): 商標権の償却終了は、旧RJRIが'19年4月、旧Gallaherが'27年3月

6. 資本的支出

(単位:億円)

	07年9月期	08年9月期	増減
資本的支出	570	488	△ 82
国内たばこ事業	295	194	△ 100
海外たばこ事業 ^(注)	202	186	△ 16
医薬事業	15	16	0
食品事業	24	56	31
その他事業	43	33	△ 10

(注): 海外たばこ事業は、1-6月期の実績

7. 手元流動性^(注)

(単位:億円)

	08年3月末	08年9月期	増減
手元流動性	2,188	1,791	△ 397

(注): 手元流動性=現金+有価証券+現先

8. 有利子負債^(注)

(単位:億円)

	08年3月末	08年9月期	増減
有利子負債	13,892	12,645	△ 1,247

(注): 有利子負債=短期借入金+社債+長期借入金

9. 主な事業関連計数

【国内たばこ事業】	07年9月期	08年9月期	増減
JT販売数量 ^(注)	858	829	△ 28 億本
国内総需要	1,326	1,277	△ 48 億本
JT販売数量シェア	64.7%	64.9%	0.2%pt
JT千本当税込売上高	12,696	12,696	0 円
JT千本当税抜売上高	4,054	4,055	1 円
【海外たばこ事業】	07年6月期	08年6月期	増減
販売数量	1,593	2,211	618 億本
GFB販売数量	883	1,192	308 億本
連結円ドルレート	120.15	104.89	△ 15.26 円
【医薬事業】	07年9月期	08年9月期	増減
研究開発費(単体)	114	121	7 億円
【食品事業-飲料事業】	08年3月末	08年9月期	増減
自動販売機台数 ^(注)	257,000	257,000	0 台
うちマーキング機	35,500	34,000	△ 1,500 台
うちコンビ機	71,500	75,000	3,500 台

(注): JT販売数量には国内免税販売分及び中国事業部分を含まない。当該数量は、2007年9月期17億本、2008年9月期19億本。

(注): 自動販売機台数には、関係会社が運営する他社機(缶・フック等)及びカップ機を含む。

(注): 「マーキング機」とは当社所有の自動販売機を指し、「コンビ機」とは関係会社所有で他社の製品も取り扱いつながら、JT製品の露出を積極的に行う自動販売機を指す。

1. 2009年3月期連結業績予想(当初見込比較)

(単位:億円)

	当初見込	今回見込	増減
税込売上高	66,100	68,700	2,600
EBITDA	5,930	6,340	410
営業利益	3,110	3,480	370
経常利益	2,780	2,900	120
当期純利益	1,480	1,600	120
ROE(株主資本利益率)	7.7%	9.3%	1.6%pt
フリーキャッシュフロー	2,650	2,290	△ 360

(単位:億円)

	当初見込	今回見込	増減
資本的支出	1,490	1,540	50
国内たばこ事業	630	620	△ 10
海外たばこ事業	560	650	90
医薬事業	30	35	5
食品事業	230	210	△ 20
その他事業	40	25	△ 15

事業セグメント別業績予想

(単位:億円)

	当初見込	今回見込	増減
税込売上高	66,100	68,700	2,600
国内たばこ事業	31,650	31,690	40
除く輸入たばこ	20,490	20,520	30
海外たばこ事業	28,960	31,550	2,590
除く物流事業	26,180	28,220	2,040
医薬事業	445	545	100
食品事業	4,860	4,780	△ 80
EBITDA	5,930	6,340	410
国内たばこ事業	2,610	2,640	30
海外たばこ事業	3,010	3,340	330
医薬事業	△ 80	10	90
食品事業	260	225	△ 35
営業利益	3,110	3,480	370
国内たばこ事業	1,730	1,800	70
海外たばこ事業	1,440	1,690	250
医薬事業	△ 120	△ 30	90
食品事業	△ 40	△ 70	△ 30
減価償却費	2,820	2,860	40
国内たばこ事業	880	840	△ 40
海外たばこ事業	1,570	1,650	80
医薬事業	40	40	0
食品事業	300	295	△ 5

業績予想の主な前提条件

(1) 国内たばこ事業

(単位:億本)

	当初見込	今回見込	増減
販売数量	1,590	1,590	0

※販売数量からは国内免税販売分及び中国事業部分を除く。

(2) 海外たばこ事業

(単位:億本、円)

	当初見込	今回見込	増減
販売数量	4,500	4,520	20
GFB販売数量	2,430	2,440	10
円/USドルレート	100.00	103.00	3.00

主要投資案件ののれん償却費

海外たばこ事業

(単位:百万ドル)

	償却費算定の前提となるのれん金額	09年3月期償却見込	償却年数
旧RJRI及び旧Gallaher関連	18,159	908	20年

(注):のれんの償却終了は、旧RJRIが'19年4月、旧Gallaherが'27年3月

食品事業

(単位:億円)

	償却費算定の前提となるのれん金額	09年3月期償却見込	償却年数
加ト吉	450	90	5年

(注):のれんの償却終了は、'12年12月

2. 2009年3月期連結業績予想(前期実績比較)

(単位:億円)

	前期実績	今回見込	増減
税込売上高	64,097	68,700	4,602
EBITDA	6,020	6,340	319
営業利益	4,305	3,480	△ 825
経常利益	3,626	2,900	△ 726
当期純利益	2,387	1,600	△ 787
ROE(株主資本利益率)	11.8%	9.3%	-2.5%pt
フリーキャッシュフロー	△ 14,937	2,290	17,227

(単位:億円)

	前期実績	今回見込	増減
資本的支出	1,295	1,540	244
国内たばこ事業	572	620	47
海外たばこ事業	484	650	165
医薬事業	42	35	△ 7
食品事業	60	210	149
その他事業	147	25	△ 122

事業セグメント別業績予想

(単位:億円)

	前期実績	今回見込	増減
税込売上高	64,097	68,700	4,602
国内たばこ事業	33,623	31,690	△ 1,933
除く輸入たばこ	21,692	20,520	△ 1,172
海外たばこ事業	26,399	31,550	5,150
除く物流事業	23,810	28,220	4,409
医薬事業	490	545	54
食品事業	3,364	4,780	1,415
EBITDA	6,020	6,340	319
国内たばこ事業	3,067	2,640	△ 427
海外たばこ事業	2,707	3,340	632
医薬事業	△ 62	10	72
食品事業	83	225	141
営業利益	4,305	3,480	△ 825
国内たばこ事業	2,223	1,800	△ 423
海外たばこ事業	2,053	1,690	△ 363
医薬事業	△ 96	△ 30	66
食品事業	6	△ 70	△ 76
減価償却費	1,715	2,860	1,144
国内たばこ事業	843	840	△ 3
海外たばこ事業	653	1,650	996
医薬事業	33	40	6
食品事業	76	295	218

業績予想の主な前提条件

(1) 国内たばこ事業

(単位:億本)

	前期実績	今回見込	増減
販売数量	1,677	1,590	△ 87

※販売数量からは国内免税販売分及び中国事業部分を除く。

(2) 海外たばこ事業

(単位:億本、円)

	前期実績	今回見込	増減
販売数量	3,856	4,520	664
GFB販売数量	2,032	2,440	408
円/USドルレート	117.85	103.00	△ 14.85

主要投資案件の商標権償却費

JT

(単位:億円)

	08年3月期実績	09年3月期償却見込	償却年数
旧RJRI関連	293	293	10年

(注):商標権の償却終了は、'09年4月

JTインターナショナル

(単位:百万ドル)

	07年12月期実績	08年12月期償却見込	償却年数
旧RJRI及び旧Gallaher関連	220	284	主に20年

(注):商標権の償却終了は、旧RJRIが'19年4月、旧Gallaherが'27年3月

国内JT製品データ集

(注)：表中の数値には中国、香港、マカオ市場および国内免税市場販売分は含まれておりません。

国内たばこ事業関係係数

1. 四半期別販売数量 (単位: 億本)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	540	368	446	393	1,749
2007年度	427	430	437	382	1,677
2008年度	420	408			

2. 四半期別定価代金 (単位: 億円)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	7,403	5,475	6,646	5,870	25,395
2007年度	6,367	6,414	6,516	5,700	24,998
2008年度	6,269	6,086			

(注)：販売定価代金 = 販売数量 × 小売定価

3. 四半期別千本当売上高 (単位: 円)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	11,663	12,677	12,688	12,699	12,371
2007年度	12,698	12,694	12,704	12,702	12,699
2008年度	12,699	12,693			

(注)：本項目では、販売定価代金から販売店マージン、消費税を差し引いたものを売上高としております。
千本当売上高 = (販売定価代金 - 販売店マージン - 消費税) / 販売数量 × 1,000

4. 四半期別千本当税抜売上高 (単位: 円)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	3,852	4,050	4,050	4,056	3,990
2007年度	4,056	4,053	4,063	4,057	4,057
2008年度	4,056	4,054			

(注)：本項目では、販売定価代金から販売店マージン、消費税を差し引いたものを売上高としております。
千本当税抜売上高 = { 販売定価代金 - 販売店マージン - 消費税 - たばこ税(国税) - たばこ税(地方税) - たばこ特別税(国税) } / 販売数量 × 1,000

5. 四半期別シェア (単位: %)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	65.5	64.2	64.7	64.5	64.8
2007年度	64.9	64.5	65.3	65.0	64.9
2008年度	64.9	64.9			

伸張セグメントシェア

1. 四半期別タール1mgセグメントシェア

①JT タール1mg製品市場シェア (単位: %)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	12.4	12.5	13.3	13.6	12.9
2007年度	13.9	13.7	14.0	14.3	14.0
2008年度	14.5	14.5			

②セグメント内シェア (単位: %)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	61.3	60.9	62.4	62.2	62.2
2007年度	62.0	61.6	62.1	62.0	62.0
2008年度	62.4	63.0			

2. 四半期別メンソールセグメントシェア

①JT メンソール製品市場シェア (単位: %)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	6.7	6.9	6.7	7.1	6.8
2007年度	7.2	7.5	7.2	7.5	7.4
2008年度	7.5	7.4			

②セグメント内シェア (単位: %)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	35.0	34.1	33.8	34.8	34.8
2007年度	34.9	35.2	34.0	34.4	34.4
2008年度	34.3	33.5			

3. 四半期別320円以上製品セグメントシェア

①JT 320円以上製品市場シェア (単位: %)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	5.7	5.4	5.2	5.5	5.5
2007年度	5.6	5.2	5.4	5.3	5.4
2008年度	5.2	5.0			

②セグメント内シェア (単位: %)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	24.3	22.5	22.6	23.2	23.2
2007年度	23.5	22.0	22.5	21.9	21.9
2008年度	21.7	20.7			

* 2006年4-6月期以前は300円以上製品セグメント

4. 四半期別D-spec製品シェア (単位: %)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	通期
2006年度	4.12	3.84	3.85	4.34	4.04
2007年度	4.41	4.10	4.77	5.13	4.59
2008年度	5.10	4.82			

* ビアニッシモ及びプレミアは2006年3月より、バヴェル・フレアは2006年12月より、D-spec製品として販売しております。

医薬事業 臨床開発品目 (2008年10月30日現在)

開発名	開発段階	主な適応症	作用機序	詳細	権利
JTT-705 (経口)	国内：Phase2	脂質異常症	CETP (コレステリルエステル転送蛋白) 阻害	HDL (高密度リポ蛋白：善玉コレステロール) 中のコレステロールをLDL (低密度リポ蛋白：悪玉コレステロール) に転送するCETPを阻害することにより、血中HDLを増加させる	スイスのロシュ社へ日本を除く全世界の開発・商業化権を導出 (同社ではPhase3)
JTT-130 (経口)	国内：Phase2 海外：Phase2	脂質異常症	MTP (ミクロソームトリグリセリド転送蛋白) 阻害	MTPを阻害することにより、コレステロール及びトリグリセリドの吸収を抑制し、脂質値を低下させる	
JTK-303 (経口)	国内：Phase1	HIV感染症	インテグラーゼ阻害	HIV (ヒト免疫不全ウイルス) の増殖に関わる酵素であるインテグラーゼの働きを阻害する	米国ギリアド・サイエンシズ社へ日本を除く全世界の開発・商業化権を導出 (同社ではPhase3)
JTT-302 (経口)	海外：Phase2	脂質異常症	CETP (コレステリルエステル転送蛋白) 阻害	HDL (高密度リポ蛋白：善玉コレステロール) 中のコレステロールをLDL (低密度リポ蛋白：悪玉コレステロール) に転送するCETPを阻害することにより、血中HDLを増加させる	
JTT-305 (経口)	国内：Phase2	骨粗鬆症	CaSR (カルシウム感知受容体) 拮抗	副甲状腺細胞のCaSRに作用し、血中Caの感知を阻害することで副甲状腺ホルモンの分泌を促し、骨の代謝回転を高めることにより骨形成を促進する	米国メルク社へ日本を除く全世界の開発・商業化権を導出
JTT-552 (経口)	国内：Phase2	高尿酸血症	URAT1 (尿酸トランスポーター1) 阻害	腎臓における尿酸の再吸収に関与するURAT1の働きを阻害することにより、尿中への尿酸排泄を促進させ、血中尿酸値を低下させる	
JTT-651 (経口)	国内：Phase1	2型糖尿病	GP (グリコーゲンホスホリラーゼ) 阻害	グリコーゲン分解酵素であるGPの働きを阻害することにより、肝臓から血中への糖放出を抑制し、血糖を低下させる	
JTS-653 (経口)	国内：Phase1	鎮痛、過活動膀胱	TRPV1 (バニロイド受容体1) 阻害	知覚神経に存在するTRPV1の働きを阻害することにより症状を改善する	
JTT-654 (経口)	海外：Phase1	2型糖尿病	HSD-1 (11βヒドロキシステロイド脱水素酵素) 阻害	HSD-1の働きを阻害することにより、過剰なグルココルチコイド作用を抑制する	
JTK-656 (経口)	海外：Phase1	HIV感染症	インテグラーゼ阻害	HIV (ヒト免疫不全ウイルス) の増殖に関わる酵素であるインテグラーゼの働きを阻害する	

前回 (2008年7月31日) 公表時からの変更点：

JTK-656の海外臨床入り

JTT-305について、日本を除く全世界における開発・商業化権を導出したため、その旨権利欄に記載